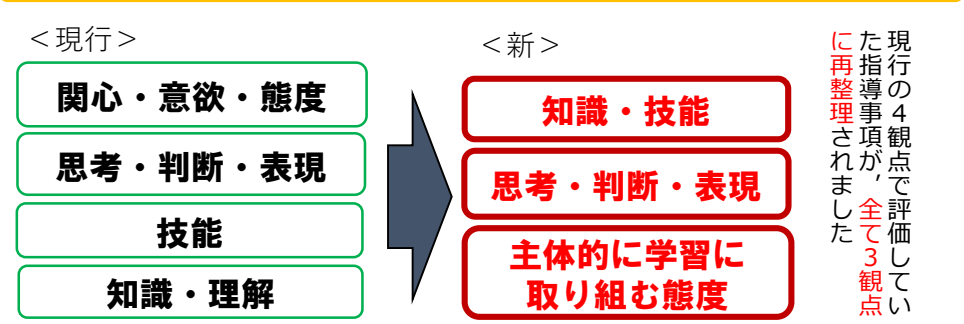


学習評価について（高等学校数学科）

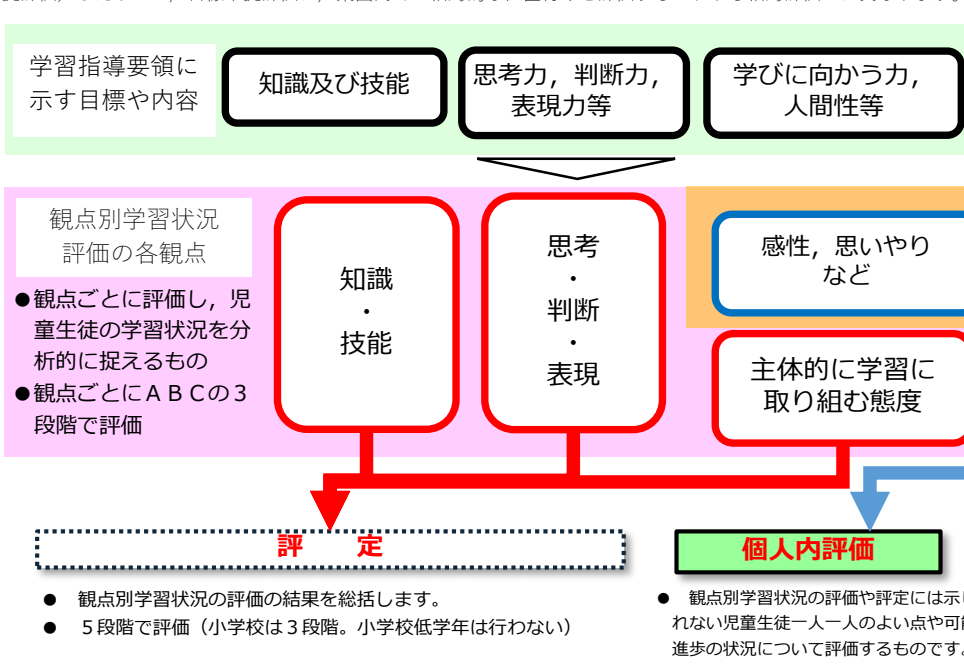
観点別学習状況の評価の観点の整理（p. 7～）

資質・能力の三つの柱に基づいた目標や内容の再整理を踏まえて、観点別学習状況の評価の観点については、小・中・高等学校の各教科等を通じて、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点到整理されました。



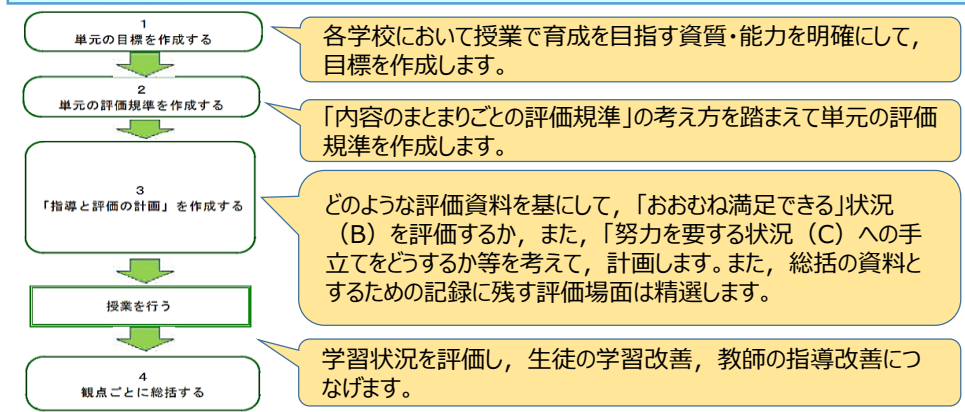
学習評価の基本構造（p. 9～）

各教科における評価は、学習指導要領に示す各教科の目標や内容に照らして学習状況の評価するものです。（目標準拠評価）したがって、目標準拠評価は、集団内での相対的な位置付けを評価するいわゆる相対評価とは異なります。



< 参考 > 「児童生徒の学習評価の在り方（報告）」平成31年1月21日 文部科学省

学習評価の進め方について（p. 4 1～）



単元の評価規準作成のポイント（p. 4 2～）

①各教科における「内容のまとまり」と「評価の観点」との 関係を確認します。

学習指導要領	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	7(ア)数を実数まで拡張する意義を理解し、簡単な	イ(4)問題を解決する際に、既に学習した計算の方法と関連付け	※ 内容には、学びに向かう力、人間性等について示され
学習指導要領の各内容で、「ア」は「知識及び技能」、「イ」は「思考力、判断力、表現力等」に関する内容をそれぞれ表しています。			

②【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成します。

評価規準例	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・数を実数まで拡張する意義を理解するとともに、簡単な無理数の四則計算をすることができる。	・集合の考えを用いて命題を論理的に考察し、簡単な命題の証明をすることができる。	・事象を数と式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。
【観点ごとのポイント】 ・知識・技能：「知識及び技能」の指導事項等の文末を、「～している」「～することができる」とします。 ・思考・判断・表現：「思考力、判断力、表現力等」の指導事項等の文末を「～することができる」とします。 ・主体的に学習に取り組む態度：「観念の趣旨」の内容等を踏まえ、文末を「～しようとしている」とします。			

③単元の目標と「内容のまとまりごとの評価規準」を基に、「単元の評価規準」を作成します。

単元の評価規準例（実数）	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・数を実数まで拡張することの意義を理解している。 ・実数が直線上の点と1対1に対応していることを理解している。 ・簡単な無理数についての四則計算をすることができる。	・数を拡張してきた過程を考察することができる。 ・数の考察を面的に、適切に変形したりすることがで	・数を実数まで拡張する意義を認識し数学を活用しようとした数学的論拠に基づき判断しようとしたりして 学習指導要領解説には「直線上の点と1対1に対応していることなどについて理解することが明記されているため、追記しています。」 考察を深めたり、評価・改善し
「内容のまとまりごとの評価規準」には、学習指導要領の内容における「用語・記号」「内容の取り扱い」についての記述がないので、これらの各事項も含めて作成します。			

